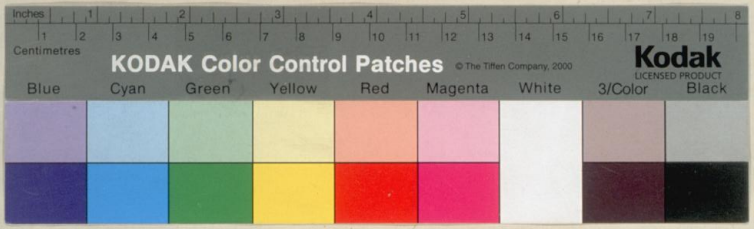
20181
教科書文庫
2
810
30-1874
20000
20925
HT.1874



教育学科 N6865

廣島大學圖書之印

広島大学 教 20995 図書

# 洋學道案内序

眼ノ彩色ヲ觀耳ノ聲音ヲ聽キ口ノ食滋ヲ味ヒ鼻ノ香氣ヲ嗅クヤ人體ニ於テ各其一分ノ用アリテ一モ缺ク可ラス其他四肢ニ至リテ亦然リ洋學ニ於ルモ斯ノ如ク專門学ノ外其普通

ニ學フヘキモノハ皆先後緩急
ノ次序アリテ猶四肢五官ノ人
體ニ於ル如ク皆各ノ用ヲ為シ
テ一モ缺ク可ラス然ルニ洋学
ノ主旨ヲ解セサルヨリ必ス普
通ニ学ヒテ缺ク可ラサルヲ知
ラス其書籍ノ洪澣ナルヲ観テ

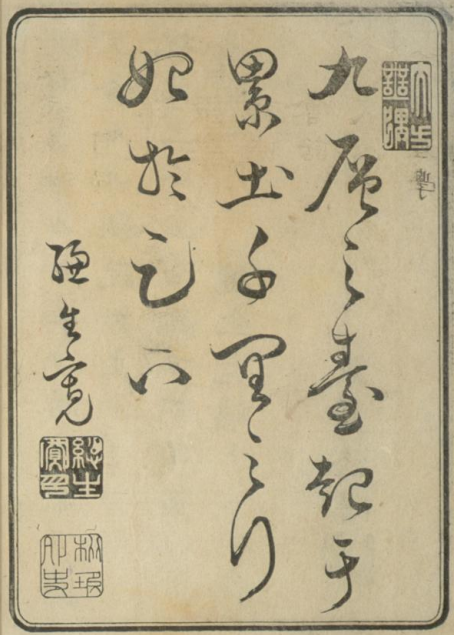
猥ニ私説ヲ立テ各学科ヲ取舎
シテ隨意ニ学問スル者亦尠ナ
カラス是則チ四肢五官ノ人躰
ニ缺ク可ラサルヲ知ラスシテ
浪ニ其手足ヲ截斷スル者ノ如
シ大ナル誤ト謂ヘシ故ニ菲才
淺学ニシテ杜撰多キヲ顧ミス

其普通ニ學フヘキ各科ノ大意
ヲ西洋諸書ヨリ意譯シテ今此
ヲ世間ニ公ニセントス願クハ
遠鄉遐陬ノ洋学ニ志アリテ良
師ニ乏シキ童蒙初学ノ輩此書
ヲ看テ普通ニ讀ムヘキ学科ノ
大意ヲ解シテ其学科ノ一ツモ缺

ク可ラサルヲ知リ彼ヲ取リ此
ヲ舍ルノ私説ヲ立ルヿ勿レ
紀元二千五百三十四年第一月
總生寛誌

東園隆書

理化學



洋學道案内

目録

洋學の大意
綴字書
讀本
會話
文法書
地理學

數学
窮理学
歴史
經濟学
脩身学
人體窮理
専門學科目ノ概畧

廣島大學圖書之印

# 洋學道案内

下總 總生寛 著

洋學ハ大意 英語ホウロジ。ラングエージ 蘭語オヰロツペーセクトニス 佛語エンストリクシヨンエトランジエール

夫レ洋学トイフモ別ニ異ナル學問ニアラズ唯外國ノ文字ヲ記臆シ其書籍ヲ讀ミその文ヲ解シ之れヲ人間日用の事ニ施シ行フ迄の

さとふて其趣意とする所ろハ人の
人たる事を詳よく其天稟ハ才能を研
き其知識を博くく衣服飲食居室より
其他のものに事かゝぶ禮義廉耻を重
んじ仁慈愛恵を主とし内ハ吾身の不
都合もなく外ハ他人の邪魔をも為さ
吾人ともに睦しく無吏安樂ゑ此世を
渡るべきさとふて必竟貴賤貧富そ



そ〳〵の分限ふ從ひ生涯不都合なく
採ふもる心得を学ぶさとあるゆゑ是ま
で漢學と唱へたる学問ゑ大抵士と稱
したふ身分の者ハ為べきさとふなり
て農工商の三民ハ無益のさゝに思ふ
ものの多く甚しきゑ至りてハ学問ゑする
身分ゑ非ずなど謂て身分すを学問生
るやうふ思ふハ大ひなる心得違ゑ是

とも亦謂れ多くと世に是まで の学者
と以へて詩歌文章ハ巧なると欲むつ
かし紀書籍を能く讀とゝ ふ畢竟そ
其学問は迂濶ふして事實日用を辨せ
ぎるゆへ士族のおとゝ其家禄を食み
そは活計の苦勞を紀そはふあらざれ
ば学ぶと能はざる日々商賣の利益ゝ依
り又い其働と其力ゝ食む農工商等い



かゝる無益は学問ゝ時日ゝ費やさば終
ゝい一身一家の生計を失ふゝ至るべ
し故ゝ学問といへば誹諧圍碁挿花の
如く遊藝はゆう看なきもの多し洋學
いきゝあらば既ハ前ゝ謂ひおとゝ
人々日々世渡の心得を学ぶことゝ
貴賤上下の差別なく人たるものゝ
現在日用は事ゝ要用なる学問ゆへ誰

人も盡く学ぶべきことなり夫もへ其学則順序あり是まゝの学問はどく人々の我儘勝手あらば文字を聯綴法方と音調を学ぶゝい綴字書あり音節を学ぶゝ讀本あり談話を学ぶゝい會話書あり文章を作り言辭を區別するゝい文法書あり世界萬國の風土を知るゝい地理書あり物は數を算ふゝ



ゝ數學あり天地萬物の運用を見て其原因を究むるゝい窮理学あり古今歴代の治亂興廢を知るゝい歴史あり一身一家は世帯より一國政府の事を論むるゝい經濟學あり人々は身を脩め他人と交るゝい脩身学あり人體の組立を説き攝生は真法を得るゝい人體窮理あり右い人たる者の普通ゝ学ぶ

べし科目ふ一事一物も其實ふ法或
其道理を講究し直に今日の用に供せ
るもの前後の序いあれども人間日用
の事ふ一ツ〻て缺べからざる斯の如
く總て物事實地に就き研究する故
高上の空理を説き却て日用卑近の実
事に迂闊なる学問とは異なり當時世
間に大稗益になりたる蒸氣機關傳信



機を初め其他種々人間日用の便利
を達する精巧なる器械い盡く学者の
工夫によりて發明せらるゝ所のみて
其世に功あるや實に大なりと云べし
然しかる大事業を起したる大学者い
其天稟の才力凡人に卓越せるのみな
らず畢竟其學則の順序規律に從ひ虛
飾を貴ばずして實着を務める故なり

近来迂遠空理ハ学問ハ日々退き日用
實着の洋學熾んなるを華士族ハ勿論
農工商ニ至る迄洋學の日用ニ有益ナ
るを心づき其子弟を〻〻学ぶしむる
ハより洋学ニ従事する者日々増し月
々多しと雖も中ニハ少し〻其文字を
覺へ其文義を解するニ至ると各ハ私
意ニ走るとおひ猥ニ各科目を取舍し〻



此書ハ讀べし彼書ハ看るにあらずと
云ひ或ハ徒ニ鋭進を好み順序を
超へ直ニ高上ハ學科に趨り却〻眼前
ハ事ニ暗し是等ハ洋学の主旨を誤ら
ぬ大なる心得違ひといふべし斯のごと
くにして学問すれば徒ニ心力を勞
し多くハ月日を費し〻唯洋学を諳記
僅に書物ハ讀ニ得るとも無用ハ空談

ふ属ト遂ニ世間日用ハ實事ニ益なかるべし今童蒙洋学の門ニ入る者下学上達の義ニ志ゝがひ卑近の事を卑しまず進取の念を發さしゝて今日学たることを忘れび直ふ明日の実事ふ之を行ふべし前ニ言へる如ク弊害ふあらいらぬ為ふなるゝば其普通ニ讀むべク各科目ハ大意を左ふ説き示したれど

童蒙初学の輩能くそれ主旨を承知して各科ハ内の一ツとして缺ぬらざるふとを心得緩急先後の順序をあやまらばしゝ他日有用ハ学者となるべきこそ簡要なれ

綴字書 英語 Spelling 獨語 Ortsbuchstabe 佛語 Epelation

綴字書とハ他の書籍ハ如く種々の話を書記したるものにあらず唯國々ニ

て其字の綴りかたと發音を教導する
為に用ひたる書ふく學問するものゝ
國語を講究するにも最も必用なる物
少く決して缺くべからざる此書籍也
右の如く綴字書ハ學問する者ハ
甚だ要用なるゝ心得違の者ありて
學問をすゝむるに至て直に文法書
又ハ地理書等に取かゝり追々進んで

歷史窮理書等に至るとも僅に其書
に意味を解するまでに事ふく其
綴字書を學ぶゝ文を作り
又手紙等を書くに來字も綴ぶに又
外國人と談話するにおよんで發音
に間違なれハ言語も通せずして談
論もべからず彼の學問をすると雖
も彼と手紙の取遣も出來ず話も出

来ざるを学ぶべきよ似たり又人を萬物は長と称する手を以て文字を書得る耳口をそなへを人と談話を出来る鳥獣と同様なるとは實ニ歎いしかるべきなるべし故ニ学問ニ志ある者ハまず書物ハ大切なるを知りて最初ハ先ず書を講究ス

## 讀本

英語 リードル
獨語 レーセブーフ
佛語 レクチュール

讀本とハ初学のものハ文章を會得し易く文章ハ日用ハ手紙を書きて其文字の傍ニ種々の符を點し音節を正しく教導する為ハ其のみ譬へバ其點ハたがひふりを句讀をほけ音をたがへ或ハ引きくし又文字の置ふとふりを間違ハたがひあるを問

答ふるより音節を區別し又歡喜哀感
感嘆等各々音節を正しく教ゆる為に
書なり
上ふも以ふ如く讀本い音節を教導
まるためにものゆえ必ず缺べからず
るの書あり然しながら大趣意を
辨へず只管中に事柄ふのを拘り
庸凡ふく看るを足らざるべと云ま



ふに書を講究せざるものあるべども
是大なる誤ふく此答を固より解し
ゆえ紙を分しを書き初学にあらず
音節を教ゆるに趣意にしを其支柄
の緊切なるべきふ少い固より論
るを及ばざるふ書に讀本を數卷
ありて四五卷目に至るに至ては文章
も如何ふしく且事柄も大切ふし

を教へとるなりべきものあり故に
学問するものは必らず此書よりはじ
め音節を講究すべし然らざる時は
問巷の音節を誤り歡喜哀戚感嘆等
の情合も通ぜず甚しきに至りては
言語は意味を誤解するに至るべし
嘗て「亜米利加合衆國」に一学士あり
て議事院の書記官に登用せらるる



案文を讀しに此人は初學の時より
讀本を講究せざるゆへ其音節甚
だ麁厲にして大に衆人は嗤笑を受
なり故にあは恥辱をもつんとて其
職を辞し日夜その書を熟讀し終に
は太学者となりしと以ふべし事は
あるゆへに童蒙はとて此よくく此
書を熟讀すべし

## 會話書

英語 コンヴァルサセーション
獨語 コンヴァルサチヨン
佛語 コンヴァルサシヨン

此書の大趣意たる處い唯学問もする者をして速やかに國々は談話を理解せしめんが為る日々入用の談話を了解しやすく書きたるしたる最も要用なる書物なりと心得て必ず諳誦まべし

上ふる以ふごとく此書を講ぜざれば其効を覺ゆる年月を費すを



なるべし其言語を發するに常に贅言多くして簡易ふ談話もすると能わず却て其以ふべき用事は趣意を失ふる至るべし故る先この書を諳誦して其言語をして日々活用せしむべし然らざれば学しても此書を学ぶる其甲斐なこと

## 文法書

英語 グランマア
獨語 グランマヨツク
佛語 グランメール

文法書ハ文章の書方書翰の認めうと言辭は差別文字は使ひ振りをもぢを書を讀で其意味を理解するためは規則を書あらつてがる物あを何もの國あるあは書あをい若冠の時より熟讀をしめ他の書を讀るうつり文法をして誤らぎるやうあまべし

若し文法書を学びぎるときハ書をよみて其意味の解せぎるハ勿論文章を作るふる文字は置うと句讀るどの附方る誤りあるて其意味通じうつ外國人ゑ對して談話ゑ出来ぎるべし今文字を讀て其義を解せを語りて其意を達せぎれば学びく其甲斐なうつ〻さもば文法書は最も必要あるおとを心得て必らす

あは書を熟讀して其規則を諳記せ
ざる

## 地理學（英語セヲグラヒー　獨語ゲヲグラヒー　佛語ジヲグラフイー）

地理學とハ地球のあらを初めとして其
海陸の區別國々ハ名稱及び名山大川
地峡海峡入江港湖水等ハ位置より風
俗人情氣候其外何ハハ國ふるまひ
る人種ありていかなる政事が行わ



とか何ハハ處ふハ繁華なる都府あり
て幾許の人民が居るなどゝ ゆゑ地
球上萬國ハ有樣を最も巨細ゑ說き
るものふを則ち世界萬國の道案内と
も ゆふ べき書なり
あハ學問を講究せざるハ僅に
我生國の有樣をも知るとなく況
んや各國の景況ゑ樣をや故ゑ今

おほ学を為ざして諸國の模様を知らんとまれば其國々を遍歴せざんを詳まもるあと能つべ又各國の歴史をとみて其事柄の起りし土地を知らざれば靴を隔て痒を搔如く其事情を詳悉もるをまつべしそ其意味もまと明了あらず

## 數學

英語 マソマ
獨語 アルトメチク
佛語 アリトメチク

數学とい指を屈めて一といひ二といふより初め何事あるも物は勘定積りをもるもとあるあをを大ゆまれば天地の大あるも測量して漏はもとなし又ことを小まれば蜚毛より以下肉眼まを見るものあらざる微物まで至るまで算用まを入らざるはなし夫ゆへ天文、地理、航海、測量、窮理、器械学等ハ言ま

及び日用の算用一身一家は會計一
國政府の勘定より以て天地まで皆此学より
出るとあり
是迄の算術と云へば只町人などの
入用ものとしてあまり大切なる物
と思ひ甚しきは卑しき身分の
なるものまべきなどあるべし
卑むい大なる心得違ひなり試しに



今日眼前の有様を見ても考へべし
一家一國の中にも必ず會計と云へ
ものあり會計とは金銀出納は勘定
取締をもる最大のものにて朝廷に
ては大藏省と云ひ大家にも勘定方
と唱へ町人は帳場と云へも皆これ
會計の事にて即ち其もとは此算に
よらざるなし加之地球の大きを星辰

の距離道程は遠近建物は高低海水は浅深い勿論物を製し事を創撰んとする時其初めはもりを付け勘定をするい都て此算に因らざるべし斯の如く算学い何事にも關るものなれば身分の尊卑に拘わらず必ず覺えたきものなり就中学者に至てい最も必用はものと云べし

## 窮理學

炎語 ナチユラル・ヒロソヒー
獨語 フイジック
佛語 フイジック

窮理学とは宇宙の間に於て人間の耳目鼻口に觸るべき物又い見聞する事の能いぬるはなりとも顯微を問わず總て其事物につき其本質を吟味し其運用を觀て其源因を推究むるをもて日月の旋轉地震雷鳴の由縁い固より晝夜寒熱は坐ち事物を打て聲響の

發もなきと雨の降り風は吹くゝ何故なるや火の焔へ水は凍るゝ如何ぞと萬事とも其實を押え實地經驗を以て萬物の源因を詳に說きたるゆへ学術は工夫器械の發明等都て此学に基ゐざるなし故に諸学の中よりおのゝ最も肝要なり

此学の專務とする少からゝ平生人々の見聞もなく慣れて別に不思議とも思ひぬ又ゝ偶然其耳目に觸れて甚だ怪しむ物に就て其源因を究め其働きを知りて之を今日は實事に施しもべく世間は神益を起す操なるを譬へば火を焚て湯の沸騰しなる時に蒸氣の昇るゝ世人の飲くなる處なりを少しも怪しむ

ことなり然るに昔英國ゐて「ゼームスワット」と云ふ人も銅鑵の湯は沸騰時湯氣は上るを見て遂に蒸氣力の機關を用ゆべきを發明せり又地震雷鳴等のごとき只恐怖しを奇異と思へども地震は地中の火脈より發し雷鳴も電氣の引起るところ有りて其源因を詳らかに至りて當然



のごとゆへを少しも愕くを足らず故に此学に入らぬものは事物は道理に暗きものへ當然のごとくも不思議なかるべし駭くに及ばぬ物ゐも驚き耳目を具へて見聞するものの道理もまたのらば幻夢の如くしを一生を送るなり

歴史 英語 ヒストリー 獨語 ゲシヘテ 佛語 イストワール

歷史とい年代記の委しきものみして大古世界の開闢せしより以來當時に至るまで國々の治亂興廢を初とし其他種々其間に起りたる事柄を巨細に書ちるし往事の得失を觀て今日の景況に比較し其実事に施もの手本となるべきものみく年代あり文字はれば何もの國ふても歷史なきはいかく甚



肝要なる學あり

今博く世界萬國の事情を知らんとまづ許多の文字を講究し各國の歷史を熟讀し彼此に有様を比較あらせ古今歷代の治亂興廢をあきらかにしてを志を初めて世界萬國の事情を知るとい以ふべし然らばば萬國の事情に暗く事に臨ん

で是非を辨ふべうらば人として是非を辨へざれば禽獸と異ならもさもば人なるものい若年の中より各國の歴史を讀む爲きなり

經濟學（英語 イコノミー 獨語 エコノミー 佛語 エコノミーポリチック）

經濟学とハ衣服飲食居室を初とし都て人間の需用する物を産し物を製し物を積む物を貴まる天然の法則あるを說き人をして其知識を擴充し勤勞を厭ハず其務むべき職分を勤め人々互に邪魔を爲ずして其欲まるところの衣服を着その好むところは食物を飲食し其望むとおもふは家室に住み其所持まる少きの財寶を繁殖し人々欲まる歡樂を享け安樂に此世を送るべき方法を教へ小ふても一身一家の

ゴカ一

世帯大なるに一國天下の世帯なれば詳に論じたる学問なれば人たるものを貴賤上下の差別なく必ず学ぶべき事なり

經濟と唱へて唯財宝を積儲へて失いぬゆうにもるのみは趣意と思ふも大なる誤解なり夫れ此学の主旨とするところは人々をして其知識



を開かしめ物を産製まるり天然の法則あるを知らしむるなり天然の法則とは人為の法にあらず自然は道理なるべきことを譬へば商賣を為るも高利を貪らずして正直に取扱へば買人を増て商賣も自ら繁昌まるは道理なり即ち善事を行へば幸福の来ることと同し

譁なり偖人る知識なくしてときハ無智蒙昧ふして己が職業の外世間ハ便利の物あるを知らざれバ貪宴を甘んじて勤勞をおゝかり奮發せずして以ふてあきたらへ其需用の物品を繁殖せるあとなく何事ふも不自由の事多くして幸福といふもの更なうべし「阿米利加」の土人ハ蒙昧蠢愚の民ふして需用物を豊饒なるあとを知らゞ生計の器械といふべ唯弓矢のみふて日々獸類を遊獵して其皮肉を衣食し貧乏ハ暮せり斯る愚民ふても此學問の主旨を知り才能を研き其知識を開て需用物を得らゝべくを知り之を聚散せゝ自然の法則ハ從ひ無益ハ費を省て

今日の儲を明日は儲に加へ骨折を厭はず職業に精を出せば遂に一生を不自由なく過るやうに至るべし

## 脩身學

英語 モーラル・ヒロソヒー
和語 モーラル・アルフロソヒー
佛語 モーラル

人心禽獸はだとくあるを是非善悪の差別を知らず唯私慾に從ひ何事をも為さゞるなれば教を設けて之を從はしめんとするも遂に無益に事なるべし



もなかるべしを人ふを善を好み悪をふくむ天禀の良心備へり其教則に從ふべき意度あるゆへ教則ありて之を教ゆるとい善い益善なれども其教なきとはい放僻邪侈終るい其本心を失ひ彼の禽獸に近し是も脩身学の因て起る所由なり然し脩身学といへども人々の私説に隨て其教則を設けたる

ふとゝみとゝいなく人い萬物の靈ふしを禽獸なとゝあとかゝり天然は善心そなゝりたるゆゑん其天然の理を基き其自然は教を従ひ設けたる教則ゆを人々をして此教則を従いしめ其天然の善心を失いを人の人たる所以を詳ふしを能く其身を脩めく禮讓を尊び正邪を明ふし父子夫婦は分を定め貴賤上下は序を分ち内い親戚の接遇外い他人の交際を身を厚しめを人を苦しめに公正慈愛を主としを少しも邪曲なく世を渡るべき道を説きたるものなをば人たる者い須臾も離るべからざる学なり

昔より隨分名高き学者といわれしものも兩親を不孝なるゝ兄弟親

屬し慈愛なきものあり事に臨み物を取扱ふに偏頗なるものあり朋友に對して不親切なるものあり其行狀は不正なるものあり無學文盲なる者い固より言ふにあらずと雖も立派なる學者に斯の如き所行あるい何ぞや是等い種々の書籍を讀みたりとも必竟此學に暗ければなり假令如何なる學者ぶるとも其心ゞ邪曲にして不正の行ひを為すものい貴ぶに足らず故に人たるものい能々此學を研究して其身持を正くすべし

人體窮理 英語 メタヒジク。ヒロソヒー 蘭語 アナトミー 佛語 フイジヨロジー

人體窮理といい人間日用は衣食室によりて人身の利害に拘るあとを論じ

人躰機關の作用筋骨の位置血液の循環より人間の生活する所以を詳ゆ人は何故健康なるや疾病いでゝして生ずるやの源因を説き其外まべく人体に屬する道理を論じたる学なり此学に明らかならざれば攝生の法健康の人も其健恃むべからず羸弱の人も生来は羸弱なれば自ら招く



と云ふものなり故に人たるものは此学を明らかにして其天稟の美體を害なきぬやうに為べし

凡そ人と生れ来て吾身体に悪敷く無病息災にして己の志す事業をなして一生を送るより幸福なるはなし今世間の人を見るに老若男女に拘らず己れ身體を養ふ所以方

法を暗ぢゆへ住處の不潔な氣もつ
うも空氣の汚濁る眼もあらば飽食
暖衣思ひのまゝふして少しも省顧ぬ
ゆへ生来ハ強壯の者ふても變じて
羸弱の人となり甚しきに至りても
多病を以て平常となし一生涯を病
床に送るものあり斯のごとくふて
ハ此世に生れたる甲斐もなく死も

るがまゝと謂ふべけれども元来此
学に暗ぢゆへ斯る状態に及ぶあり
右のごとく病身なれば假令勉強の志
ありても何事も為も能ハざ故に人
たる者ハ此学に從事し人体の源因
を詳ふし養生の方法を明ふし吾が
身體を健康にして天稟の全身を害
なわざ其志を少あらば目的を達す

右ハ人間普通の学問ゐて凡そ人たる者ハ士農工商ゑ限らず必ず心得べきことなり右の如く各科ゑ分ちを其順序ハ立ちてあるとも学ぶ人ゑハ其人の鋭鈍ゑ従ひ二科又ハ三科も共ゑ講究すべし必ずしも此科を終つてあらざれば彼科ゑ移るべからずと以ふまハあらざ右の各科を盡く学びたる上ハ一己の見識も確然と立ち緩急先後の目的も定り遂ゑ其才力の長短ゑ従ひ直ゑ進んで学ぶべきものハ左の如し

## 専門學科目の槩畧

英語 サイエンス　獨語 ビッセンシャット　佛語 フャキュールデシアンス

法科ゑハ民法商法訴訟法刑法治罪法、國法萬國公法、國勢学、法科理論等なり

理科ハ植物学、動物学、化学、地質学、星学、三角法、圓錐法、測量、微分、積分等あり文科ハ「レトリック」「ロジック」羅甸語、各國史「ヒロリヒー」等あり以上ハ専門学科目の概略ハ前ハ言へるおとく普通の学問を卒業したる者の学ぶ處あれバ假令ヘ今此各科の大意を説くとも固より初学の輩ハ解すべき事ハ

あらざるゆへ別ハ辨説を費やさゞるべ学力此ハ及ぶ者直ハ原書ハ就て考ふ

洋學道案内

# 明治七季甲戌第一月新鐫

東京書肆　文正堂　山口安兵衛梓

神田橋御門外

## 東京書肆

日本橋通一丁目　須原屋茂兵衛
同　二丁目　山城屋佐兵衛
同所　須原屋新兵衛
芝神明前　岡田屋嘉七
室町三丁目　紀伊國屋源兵衛
横山町一丁目　出雲寺萬次郎
日本橋十軒店　鈴木喜右衛門
浅草茅町二丁目　須原屋伊八
同廣小路　朝倉久兵衛
小石川傳通院前　鳳金屋清吉
石町二丁目　椀屋喜兵衛
日本橋通四丁目　長門屋龜七
同　四日市　和泉屋半兵衛
神田橋御門外　長岡屋新助
伊勢屋安兵衛